

平成31年4月22日

平成30年度 地域貢献活動支援報告書

地域イノベーション推進機構長 殿

所 属 教育学部東紀州サテライト東紀州教育学舎
氏 名 大野 恵 理

活動テーマ	東紀州地域における小学校外国語(英語)教育システムの開発と支援活動
実施期間	平成30年 5月30日 ~ 平成31年 3月31日
活動内容	<p>(1) 具体的な活動実施内容</p> <p>文部科学省から示されている小学校3年・4年、及び5年・6年の学習指導要領をもとに、3・4年及び5・6年の複式学級用として、三重大学東紀州サテライト版複式学級用年間指導計画を作成し、各教育委員会・各学校に提示した。</p> <p>外国語および外国語活動の複式学級用年間指導計画を提示しているのは数県の都道府県(例:島根県、高知県等)だけであり、それらの年間指導計画が実践可能であるかは検証されていないのが現実である。東紀州サテライトでは東紀州版複式学級用年間指導計画に基づいた各授業の指導案も作成し(5~6年生51時間分、3~4年生15時間分)、これらの複式版指導案が実践可能であるか実証実験をするために、熊野市の協力校2校において通年で出前授業を行った。協力校において実践可能であることが確認できた指導案はWeb上(moodle)で東紀州地域の小学校に勤務する教員のみ限定公開をした。平成30年9月に東紀州地域の5~6年生の外国語を担当する教員に行ったアンケート調査結果によると、回答があった教員のうち47%の教員がこれらの指導案を一部もしくは全部利用参考にしていることが分かった。</p> <p>上記の活動に加え、各教育委員会や小学校の要請を受けて、広域な</p>

ブロック別研修、教育委員会内の教員研修、学校内部での校内研修、と様々な形式において、教員研修の講師を務めた（17回、受講者数245名）。

（2）地域への貢献（地域の発展・活性化への寄与，広がり）

東紀州地域の3・4年と5・6年の74%の複式学級において、三重大学東紀州サテライト版複式学級用年間指導計画をもとにした外国語活動・外国語の授業が行われている（平成30年9月のアンケート調査結果）。また、三重県内の他の地域の複式学級を持つ教育委員会や小学校からの問い合わせもあり、県内において徐々に三重大学東紀州サテライト版複式学級用年間指導計画が、認知されてきた。また、各授業指導案は、複式学級だけでなく単式学級においても多くの教員が興味を示し、3～6年生担当の全ての教員が利用している学校も出ている。単式学級の教員にも指導案が利用されている主な理由は、3～6年生の66時間分の指導案が、日本語だけでなく英語で併記されているため、外国人指導助手（ALT）とのチーム・ティーチングがしやすいこと等がある。

年間指導計画や指導案に加え、教材も多数作成しているが、英単語のフラッシュカードは共同実施者であるすべての教育委員会を通して、地域の全ての小学校に配布され整理・保存され、教員およびALTから、「授業がしやすくなった」という声が届いた。

（3）共同実施者との連携状況

共同実施者である5市町教育委員会には、最低各月1回は訪問するなど連携を密にしている。また、各教育委員会等主催の小学校外国語教員研修会には、講師として招かれている。

（4）大学の教育・研究成果のかかわり

東紀州地域の教育関係者からの東紀州サテライトに対する要望は、英語に自信がない（できない）教員でも、ALTなしで一人で英語を教える事ができるようになるようことであった。そのため、東紀州サテライトでは既存の ICT を積極的に活用して動画等の教材を多数作成してきた。この教材作成は三重大学教職大学院の学生とも協働で行われ、その協働制作の取組みは 2019 年 3 月のアメリカの教育工学会の国際学会 SITE でポスタープレゼンテーション部門で発表され、62 の発表の中から Golden Outstanding Award（ポスター部門の金賞）を受賞した。

(5) イベント等開催実績（名称，実施場所，参加人数等）

- ・作成した年間指導計画：3～4 年生、5～6 年生用の 2 種類
- ・作成指導案数：3～4 年生 15 時間、5～6 年生 51 時間
- ・出前授業の回数:91 回、受講した児童数:1082 人
- ・教員研修会：17 回 参加した教員数：245 人
- ・作成した教材：(例) フラッシュカード 1000 単語

(6) これまでの取組みによって得られた具体的な成果について

東紀州サテライトが開所されたことすら知らない教員がいる中、東紀州サテライトの教員全員で、地域に存在を知ってもらうように積極的にあらゆる角度からアピールをしてきた。平成 30 年 9 月の段階で地域の 35 の小学校のうち 33 校の教員にアンケートに協力してもらえ、46%の教員がサテライトの指導案や教材を一部もしくは全部参考にしていることが分かった。様々な成果（上記参照）がある中、地域から信頼を得ることができたことが一番の成果であると考えている。平成 30 年度は複式学級をサポートすることを中心に取り組んできたが、今後は単式学級もサポートできるように活動していきたいと考えている。